

「まだ、水かさが多いがらやめとけよ。」

と言うのも聞かないで、少しの晴れ間を見て、はげごと網あみを持って出かけていったのだ。

雨降りの後は、思わぬところに魚が隠かくれていて、

「いつもより、たんと取れんぞ。」

と言いながら、夢中むちゆうになつて取つていたんだ。

そしたら、川の中から「ぬー」と手を出した河童かづぼが、

「俺のエサを、横取りすつとは、何事なにごとだ。」

と言いながら、三郎太さぶろうたの足を「むんず」とつかんで引つ張り込んでしまったのだ。

三郎太さぶろうたはひっくり返つて、深みふかに「ずるずる」と入り込んでしまったのだ。なんぼもが

いでも、どんどん流ながされて、行方ゆくえがわからなくなつてしまつたのだ。村中むらじゆう総出そうでで探さがしたげ

んじよ、どこにも見当だんながつたそうだ。

それからというもの、お咲さきは毎日ぼんやりと川のほとりに立つて物思ものおもいに沈しずんでいるこ